

# 論語教室だより

『寺子屋・こども論語塾』世話人会  
第 29 号  
2013 (平成25) 年7月20日 (土)

## 「ろん語じゅくについて」

札幌市立幌北小学校4年 前山 聖

ぼくは、ろん語じゅくに通って一年七月です。今では、ざぜんもろん語もだんだんなれてきました。だけど、はじめのころはぜんぜんできていませんでした。通う時も、今よりも楽しみという気持ちがなく、すごくきんちょうしていました。だけど、だんだん通っていきたびきんちょうもほぐれていって、ろん語に通うのが楽しみになりました。

これからもろん語じゅくをつづけたいです。

あと、ろん語の中で仁という言葉が出てきます。たとえば、人にやさしくしたり、あたたかい心をもったりする、そういう心のやさしい人のことをいいます。ぼくは、その言葉がろん語の中で、一番すきな言葉です。しかし、その言葉を知るまでは、仁の心があまりありませんでした。おもいやりの心もなかったし、人にやさしくすることもめったにありませんでした。でも今は、そのおもいやりの心をもって「自分にはきびしく、他人にはやさしく」それを目指していきたいと思います。その言葉をふりかえって本当にろん語はいい言葉ばかりだなと思いました。

お父さんが言っていた通り、「ぜったい大人になったら、やくにたつよ」と教えてくれた通りでした。

これからもおもいやりの心、仁の心を持ってろん語じゅくに通って、大人になった時にやくだつようにろん語を学びたいです。

※ 来月は、街道 花さんをお願いします。

### 【ちょっといい話コーナー】

安岡定子先生が講談社から「はじめての論語」を出版されました。定価は本体 838 円です。是非ご一読を!

## ★ 塾生紹介 ★

なかむら りえ 中村 理恵さん	<氏 名>	ひぐち けいこ 樋口 恵子さん
会社員	<勤務先>	3年前まで介護職として勤務
歴史	<好きな教科>	国語・音楽
読書・旅行	<趣 味>	自然・音楽・美術館等の鑑賞
大久保利通	<尊敬する人>	父親
幕末に吉田松陰が主宰した私塾に大変興味があり、身近にそのような場があれば良いのにと常々思っていたところ、道新の「まど」で論語塾の記事を見つけた時には、札幌市民で得したと思いました。	<その他>	自然の中を歩くことが何よりの楽しみで、食べ物も自然栽培の野菜・果物が好きとのこと。 これからは趣味の中に「論語」と書けるように塾生のひとりとして楽しみたいと話してくれました。
中村さんは学生時代から日本の歴史が好きで、特に松下村塾をはじめとする各藩で開講されていた私塾に関心があったとのこと。 「論語」は“故事諺”として、いくつか好きなものがあるそうですが、通読したことがないので、この論語塾での素読そして補助テキストをとっても楽しみにしているとのことでした。 中村さんは、とても好奇心旺盛で物事をいつの時も前向きに捉え、時間を有効に使いながら誠実に生きていこうとする心の豊かさをもち合わせた清々しい方だと感じました。	<先生からのコメント>	樋口さんは長年、介護の仕事をされてきたからでしょうか、とても我慢強く、心温まる方のように感じられました。そして今迄、頑張ってきた分、これからの人生を自分のために過ごしていきたいと話してくれたことがとても印象的でした。論語塾がその一助になるなら望外の喜びです。 樋口さんは、子供の頃から坐禅に興味を持っていたとのこと、楽しみにしていたそうですが、今は足を痛めているので椅子坐禅をしたいとのこと。最後に若い人へ、携帯・パソコンばかりでなく、自分と向き合ってほしいという言葉は重いものです。

● 8月の論語塾は、安岡定子先生をお迎えしてご高話を拝聴することになっています。場所は札幌サンパ  
ラザホテルで時間は午前10時からですのでお間違えのないようお願い致します。  
尚、9月は懇談会を予定しています。後日、ご案内したいと思っております。